

令和 4 年 2 月 2 日

福大生が収穫した農作物を販売し、ルワンダの学校へ寄付

＜福島大学生×ウムチョムイーザ学園支援圃場プロジェクト＞では、食農学類の学生有志 10 名が伊達市のウムチョムイーザ学園支援圃場にて農作物収穫の補助を行い、また収穫した農作物販売をサポートし、売上げの半分を「ルワンダの教育を考える会」を通じてルワンダの学校に寄付するという活動を行っています。

○活動のきっかけ

伊達市にあるウムチョムイーザ学園支援圃場では、農作物を生産・収穫し、市内のイベントで販売した後、売上げの半分を、「ルワンダの教育を考える会」を通じてルワンダの学校に寄付していましたが、新型コロナウイルス感染症の影響で多くのイベントが中止となったことで、農作物の販売先がなくなっていました。

また、「ルワンダの教育を考える会」では、これまで様々な活動を通じて寄付金を募り、ルワンダの学校へ寄付するという活動を行ってきましたが、新型コロナウイルス感染症の影響で、会の活動のほとんどが中止となり、寄付金を募ることが困難な状況になっていました。

こうした状況を知ったプロジェクト代表者（食農学類 2 年：熊澤帆夏）は、高校生の頃から「ルワンダの教育を考える会」の活動を知っていたこともあり、食農学類生の関心・専門性を活かしつつ当会の資金集めに協力したいと強く思い、伊達市ウムチョムイーザ学園支援圃場での農作物収穫の手伝いを始めました。

圃場での手伝いに加え、販売の面からもサポートできるよう、他の食農学類生と協力しながら食農学類・農林サークルの夕方市のスペースをお借りし、圃場で採れた農作物を販売し、売上の半分を寄付することができました。現在集まった寄付金額は 39,898 円で、この額はルワンダの子ども 8 人分の 1 学期分の給食費に相当します。

○達成感と学び

参加学生にとって、このプロジェクトは「達成感」「やりがい」を感じられるだけでなく、圃場を管理する菅野直芳氏（元農業高校の先生）から、作物の収穫方法や病害虫、作物を育てる際の注意点など様々な知識・技術を教えてもらえる有意義な活動となっています。

○今後の展望について

現在本プロジェクトは食農学類の学生有志で圃場に赴き活動をしていますが、今後は様々な方が圃場を訪れ、農作業を通して「農業と食」「食と人」といった関係について目を向けられるような場を提供していきたいと考えています。

また寄付金についても、「美味しく子供達の教育に貢献する」というテーマのもと、寄付金がどのように使われ貢献しているのかをより明瞭にすべく、ルワンダ・ウムチョムイーザ学園の子供たちの給食費や学費に換算して定期的に発表する機会を設けていきたいです。



写真1, 2:ウムチョムイーザ学園支援圃場にて (写真1:菅野直芳氏とカボチャ収穫の様子 写真2:白菜の収穫)



写真3, 4:夕方市にて (写真3:カボチャ販売の様子 写真4:ジャガイモ販売の様子)



写真5:「ルワンダの教育を考える会」事務局にて
(永久璃マリールイズさんに寄付をお渡しする様子)

(お問い合わせ先)

食農学類・2年 熊澤帆夏

電話: 090-2840-6050

メール: f2010032@ipc.fukushima-u.ac.jp